

# 序

自治医科大学は、昭和47年（1972）、僻地医療と地域医療の充実を目的に設立された。令和4年（2022）に自治医科大学は創立50周年を迎えることになった。50周年を記念して従来の記念誌に加え、記念事業の一環として「提言論文集」を作成することとなった。創立から50周年の節目を迎えるにあたり、今後の本学の方向性を考える貴重な機会と捉え、有識者、本学名誉教授、卒業生の方々34名からご意見、ご提言をいただき「提言論文集」を作成した次第である。

提言論文集は3部構成で、第1章は「日本の地域医療への期待」、第2章は「総合医としての在り方」、第3章は「自治医大のあるべき姿」からなっている。

提言集の巻頭には、行政を踏まえた大きな視野から地域医療および地域医療を担う自治医科大学が今後どのようにあるべきかを大石利雄理事長にまとめていただき、医学・医療の立場から今後の地域医療のあり方を永井良三学長に語っていただいた。

自治医科大学では、地域医療に貢献する医師の養成が使命であるが、単なる地域医療の医師ではなく、「地域社会のリーダーとなる医師」の養成を目指している。

そこで、第1章では行政、病院、医師会の立場から、「日本の地域医療への期待」というテーマで提言を頂き、「地域社会のリーダーとなる医師」の養成を目指す自治医大の学生教育、卒後教育に生かしていきたいと考えている。

第2章「総合医としての在り方」では、地域で活躍されている先生方の生の声を聴かせていただくことができ、非常に感銘を受けると同時に、地域医療の現実の姿を知ることができたため、これから地域医療に臨む学生にも是非とも読んでもらいたい内容となっている。

第3章「自治医大のあるべき姿」では、本学名誉教授からは自治医科大学の教育に携わった経験をもとにこれからの自治医科大学への提言をいただき、卒業生からは大学を離れた学外からの視点から今後の自治医大のあり方を決めるにあたり貴重なご意見をいただけた。

「未来の地域医療を支えるために」というタイトルが示すように自治医科大学だけではなく今後の日本の地域医療の将来に向けての提言集ともなっている。34名の先生方から頂いた提言を元に、自治医科大学が更なる地域医療への貢献ができるよう、自治医科大学の教育、研究、臨床へと生かしていきたい。

自治医科大学が今後ただ単に地域医療に貢献するだけでなく地域社会のリーダーとして遺憾なく力を発揮していけるような教育に取り組んでいく示唆を与えてくれる提言集となっていると確信している。

記念誌編纂等小委員会  
委員長 武藤 弘行